

山形県支部年次大会・研修会報告

1. 令和元年 山形県支部年次大会・研修会

開催日：令和元年7月5日（金）

場 所：山形グランドホテル

参加者：58名

令和初年度となる山形県支部年次大会開催にあたり、来賓である山形県商工労働部工業戦略技術振興課科学技術政策主幹 奥山様、本年度より公益社団法人日本技術士会東北本部 本部長に就任されました熊谷本部長より御祝辞を頂戴致しました。熊谷本部長には、年次大会終了後の研修会におきましても講演をいただきました。

議事では、平成30年度事業報告および決算内容についての報告と、令和元年度活動方針並びに事業計画、一般会計予算について報告されました。参加された会員の皆様から承認が得られたことから順次事業を進めて参ります。



写真1. 三森支部長による挨拶



写真2. 参加者記念撮影

2. 研修会

年次大会に引き続き研修会が開催され、第1部は公益社団法人日本技術士会東北本部 熊谷本部長より「技術士制度改革について」と題し、技術士制度改革にともなうこれまでの歩みと技術士制度改革にむけた今後の取組についてご講演いただきました。

第2部では、本支部委員会でもあり独立行政法人国立高等専門学校機構 鶴岡工業高等専門学校 教授である宍戸教授より「教育的側面からみる工学倫理の実質性」と題し、教育者としての倫理の捉え方、開発者としての倫理の実質性について講演いただきました。

【研修報告1：「技術士制度改革について」】

熊谷本部長からは、先月6月に本部会議にて報告された資料を基に、これから改定される技術精度について説明された。改定の論点は「資格活用」、「更新制度」とされている。「資格活用」については各チーム（国際的活用推進、公的活用推進、産業界活用推進）が活動成果を検討し、今後、具体的実施方針について発表していくとの報告を受けた。「更新制度」については、2020年に更新証の交付から始まり、5つのグループに分け更新を進めていくとされる。更新は技術士登録者全員が対象であること、CPDの登録が必須となることから段階的対応を実施していくよう説明された。



写真3. 熊谷本部長による講演



写真4. 熊谷本部長による講演

【研修報告2：「教育的側面からみる工学倫理の実質性」】

宍戸教授は、企業者開発者としての経験から教育者となり、現在、鶴岡高専、山形大学等、様々な教育機関で学生への指導・教育・研究に尽力されています。その豊富な経験から「宍戸節」を取り入れた工学倫理について講演していただいた。

「やる気スイッチ!!!」

「厳しいからこそ価値が生まれる!!!」

「教育→サービス業ではない!!!」

と「モノづくり」から「人づくり」に考え方が変わったからこそ見えてきたことがとても重要であると解説していただいた。

また、倫理教育の効率的な方法は「グループワーク」であり教師はグループのプロセス管理だけに注力することであるとのこと。そして、「学ぶのであれば、(学びたいのであれば) 学ぶ側の姿勢も見せる(示す)べきである」と学生へメッセージを送っているようです。「～宍戸流に～」



写真5. 宍戸教授による講演

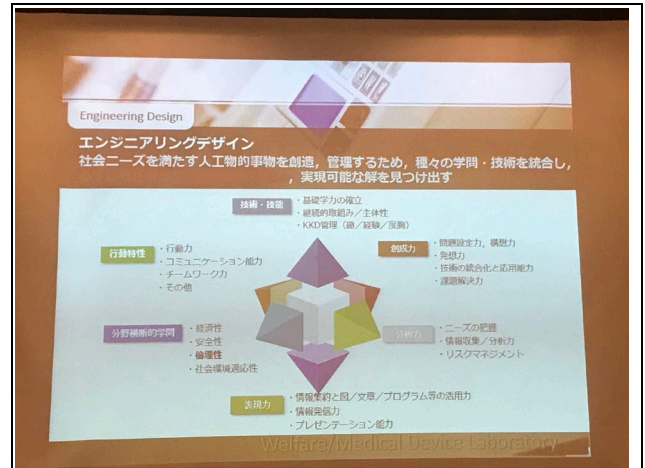


写真6. 宍戸教授による講演

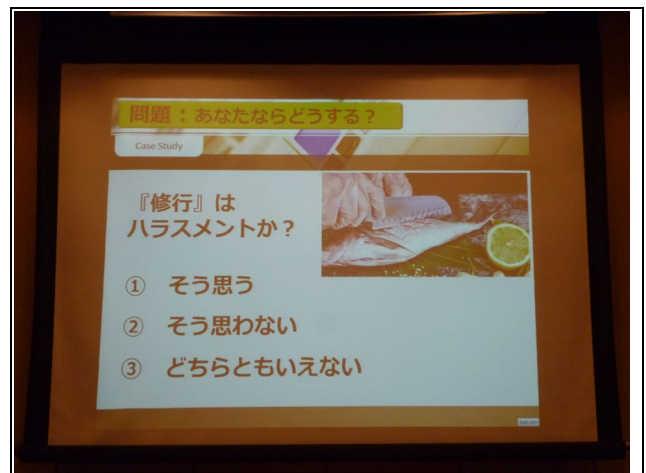


写真7. 宍戸教授による講演

おわりに

山形県支部では各種委員会のメンバーを刷新し、新たな体制で支部活動を進めて参ります。今後度も様々な活動を各委員会が主体に計画しております。多くの会員のみなさまの参加とご協力を引き続きよろしくお願い致します。

(広報部会長 土屋 記)